

## 御嶽山の火山活動解説資料

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

### ＜噴火警戒レベル3（入山規制）が継続＞

御嶽山では、火山灰を噴出するような噴火が継続しており、引き続き火山活動は高まった状態で推移しています。

本日（7日）航空自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、前回（9月28日）実施した上空からの観測以降に、火山灰を広範囲に噴出、または大きな噴石を飛散させるような噴火が発生した痕跡は認められず、噴煙及び火口の状況に変化はなく、地形の変化は特段認められませんでした。

9月27日の噴火前から連続して発生している火山性微動は、本日（7日）に入ってから、検知できない程度の大きさになっています。

### 【防災上の警戒事項等】

御嶽山では、火口から4km程度の範囲では大きな噴石の飛散や火砕流に警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

## ○ 活動状況

### ・噴煙等の状況（図1、表1）

本日（7日）午前6時頃から、航空自衛隊の協力により実施した上空からの観測によると、剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からは白色の噴煙が勢いよく火口縁上約400mまで上がり、時折火山灰混じりの灰白色の噴煙が認められました。噴煙の風下側で、硫化水素臭が認められました。

なお、前回（9月28日）実施した上空からの観測以降に火山灰を広範囲に噴出、または大きな噴石を飛散させるような噴火が発生した痕跡は認められませんでした。

噴煙の高さは本日（7日）15時30分現在、火口縁上約500mで南東に流れています。

### ・地震・微動の発生状況（表1、図2）

噴火発生の11分前の9月27日11時41分頃から連続して発生していた火山性微動は、振幅の増減を繰り返して継続していましたが、本日（7日）に入ってから、検知できない程度の大きさになっています。

火山性微動の振幅の増減は、山頂付近浅部での火山活動の消長を表しているものと考えられますが、火山性微動の振幅が小さくなったことが必ずしも火山活動の低下を表すものではありません。また、火山性微動の振幅は、火山活動以外の要因により増大することもあります。5日に観測された振幅の一時的な増大もこのひとつと考えられます。

### ・地殻変動の状況

地殻変動観測データに特段の変化はみられません。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。



図 1 御嶽山 航空自衛隊の協力による上空からの観測（10 月 7 日 06 時 27 分 気象庁撮影）

- ・ 剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からは白色の噴煙が勢いよく火口縁上約 400mまで上がり、時折火山灰混じりの灰白色の噴煙が認められました。
- ・ 噴煙の風下側で硫化水素臭が認められました。
- ・ 火山灰を広範囲に噴出、または大きな噴石を飛散させるような噴火が発生した痕跡は認められず、噴煙及び火口の状況に変化はなく、地形の変化は特段認められませんでした。

表1 御嶽山 2014年9月及び10月（6日まで）の火山活動状況

9月	噴火回数	火山性地震回数	火山性微動回数	山頂火口の噴煙の状況 <sup>1)</sup>		備考
				日最高(m)	噴煙量	
1日	0	4	0	×	×	
2日	0	0	0	-	-	
3日	0	0	0	×	×	
4日	0	0	0	×	×	
5日	0	0	0	×	×	
6日	0	1	0	-	-	
7日	0	2	0	×	×	
8日	0	5	0	-	-	
9日	0	10	0	-	-	
10日	0	52	0	-	-	
11日	0	85	0	×	×	
12日	0	10	0	-	-	
13日	0	7	0	-	-	
14日	0	8	0	-	-	
15日	0	27	0	-	-	
16日	0	18	0	×	×	
17日	0	10	0	-	-	
18日	0	24	0	-	-	
19日	0	3	0	-	-	
20日	0	10	0	-	-	
21日	0	17	0	-	-	
22日	0	3	0	×	×	
23日	0	10	0	-	-	
24日	0	9	0	-	-	
25日	0	8	0	×	×	
26日	0	6	0	×	×	
27日	1	483	1	×	×	11時52分頃噴火発生。 南西側に火砕流流下、北東山麓を中心に降灰。
28日	継続	131	継続	800	3	噴火継続。二酸化硫黄放出量300～1800トン/日。
29日	継続	53	継続	400	2	噴火継続。二酸化硫黄放出量400～1300トン/日。
30日	継続	56	継続	400	2	噴火継続。二酸化硫黄放出量1200～1500トン/日。
合計	1	1052	1			

10月	噴火回数	火山性地震回数	火山性微動回数	山頂火口の噴煙の状況 <sup>1)</sup>		備考
				日最高(m)	噴煙量	
1日	継続	35	継続	400	2	噴火継続。二酸化硫黄放出量700～1000トン/日。
2日	継続	16	継続	×	×	噴火継続。二酸化硫黄放出量500～800トン/日。
3日	継続	27	継続	×	×	噴火継続。二酸化硫黄放出量600～1500トン/日。
4日	継続	25	継続	300	1	噴火継続。二酸化硫黄放出量400～600トン/日。
5日	継続	18	継続	×	×	噴火継続。
6日	継続	23	継続	×	×	噴火継続。
合計	1	144	1			

- 1) 噴煙の高さ及び噴煙量は定時観測(09時・15時)の日最大値です。噴煙量は以下の7階級で観測しています。  
 1：極めて少量    2：少量    3：中量    4：やや多量    5：多量    6：極めて多量  
 7：噴煙量6以上の大噴火で、噴煙が山体を覆う位に多く噴煙の高さは成層圏まで達したと思われるもの  
 -：噴煙なし    ×：不明

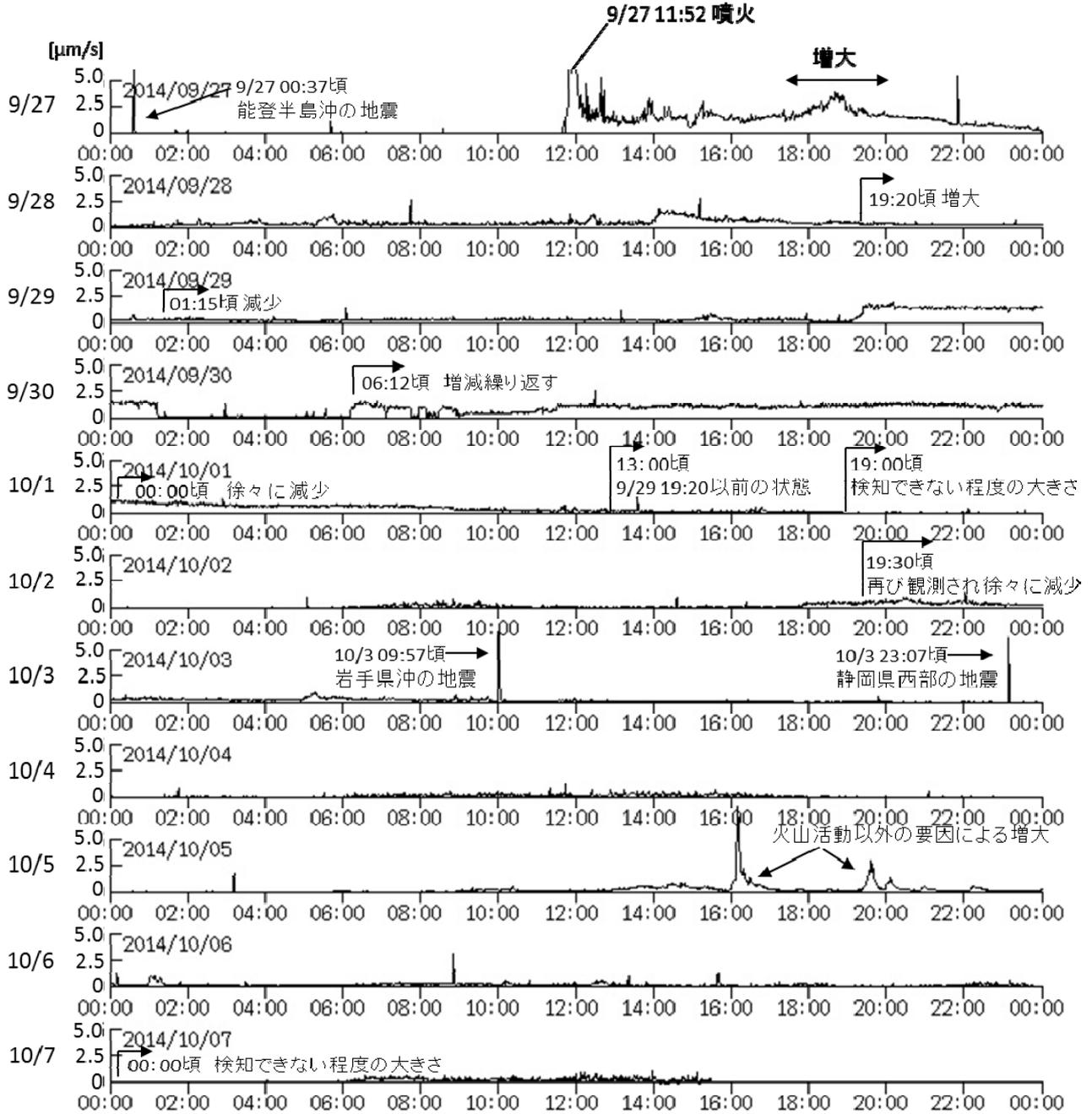
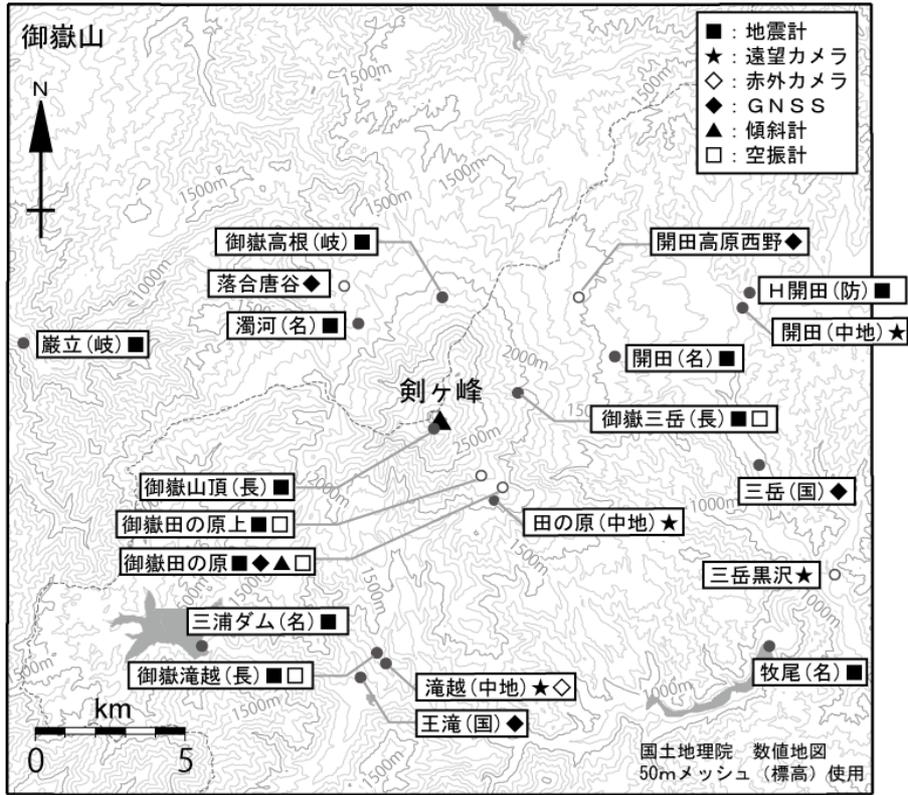


図2 御嶽山 田の原上観測点（剣ヶ峰南東約2km）の上下動地震波形の1分間振幅平均値の推移  
（2014年9月27日00時～10月7日15時30分）

- ・連続して発生している火山性微動は、増減を繰り返して継続していましたが、本日（7日）に入ってから、検知できない程度の大きさになっています。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
 (国) : 国土地理院、(中地) : 中部地方整備局、(防) : 防災科学技術研究所、(名) : 名古屋大学、  
 (長) : 長野県、(岐) : 岐阜県

図3 御嶽山 観測点配置図